

第 31 回 CDM 理事会傍聴出席報告

2007 年 5 月 22 日

社団法人海外環境協力センター

I. 理事会概要

1. 日時： 2007 年 5 月 2 日（水）～5 月 4 日（金）
（公開討議は 3 日、4 日に開催）
2. 場所： UNFCCC 事務局（ドイツ・ボン）
3. 議題：
 1. 理事会メンバーについて
 2. 議題の採択
 3. ワークプラン
 - a) 運営組織の信任手続
 - b) ベースライン・モニタリング計画の方法論
 - c) 植林・再植林プロジェクトに関する事項
 - d) 小規模 CDM プロジェクトに関する事項
 - e) CDM プロジェクト活動の登録に関する事項
 - f) CER 発行及び CDM 登録簿（レジストリ）に関する事項
 - g) 補助機関（SB）との協働
 4. CDM 管理計画及び予算に関する事項
 5. その他（(a) プログラム CDM、(b) DNA との関係、(c) DOE/AE との関係、(d) 利害関係者・各国・NGO との関係、(e) その他）
 6. 閉会



【理事会メンバーについて】

- ・EB メンバーの辞任（後任は未定）
 - Anastasia Moskalenko 理事（ロシア / 東欧グループ）
 - Maria-José Sanz Sanchez 代理理事（スペイン / 西欧・その他グループ）

【運営組織の信任手続】

< ガイダンス事項 >

- ・EB の指示に従わない DOE に対する適切な措置について、引き続き CDM-AP に対し、検討を要請。
（2006 年度年次報告書の提出が遅れていた KPMG は、4 月 2 日付で提出した）
- ・DOE に対するマルチサイト認定システムの適用可能性について審議。品質管理システムと関連させ、CDM-AP に更なる検討を要請、次々回 EB33 に検討結果を提出するよう要請した。
- ・CDM-AP メンバー改選に伴い、2 名を選出

【ベースライン・モニタリング計画の方法論】

< 新規方法論 >

- ・承認（7 件）：
 - AM0048：“New cogeneration facilities supplying electricity and/or steam to multiple customers and displacing grid/grid-off steam and electricity generation with more carbon-intensive fuels”（スコープ 1：エネルギー産業）

- AM0049: “Methodology for gas based energy generation in an industrial facility” (スコープ 1: エネルギー産業、4: 製造業)
- AM0050: “Feed switch in integrated Ammonia-urea manufacturing industry” (スコープ 5: 化学産業)
- AM0051: “Secondary catalytic N2O destruction in nitric acid plants” (スコープ 5: 化学産業)
- AM0052: “Increased electricity generation from existing hydropower stations through Decision Support System optimization” (スコープ 1: エネルギー産業)
- NM0174-rev: “MSW Incineration Project in Guanzhuang, Tianjin City” AM0025 へ統合化
- NM0179: “Waste Gas and/or Waste Heat Utilization for ‘Process Steam’ generation or ‘Process Steam and Power’” EB32 にて統合化方法論として採択へ

・修正条件付承認 (4 件): NM0194、NM0197、NM0200、NM0202

・不承認 (4 件): NM0142-rev、NM0170-rev、NM0195、NM0204

< ガイダンス事項 >

・次期 MP メンバー (2007 年 6 月 ~ 2008 年 5 月): 山口健一郎氏 (三菱総合研究所) 等、15 名選出

【植林・再植林プロジェクトに関する事項】

< ガイダンス事項 >

・AR 土地適格性証明手続案について、追加のパブコメを実施 (5 月 7 日 ~ 6 月 18 日)

・AR 方法論ツール案 (AR プロジェクト内のサンプルプロット算出方法) を採択

・ツール案 (AR プロジェクトでの重要な GHG 排出テスト) を採択

・次期 AR WG メンバー (2007 年 6 月 ~ 2008 年 5 月): 10 名選出 (新規追加メンバー 3 名及び MP からの代表者含む)

【小規模 CDM プロジェクトに関する事項】

< 新規 SSC 方法論 >

・承認 (2 件):

- AMS III.L: “Avoidance of methane production from biomass decay through controlled pyrolysis”

- AMS III.M: “Reduction in consumption of electricity by recovering soda from paper manufacturing process”

< 承認済み SSC 方法論の修正 >

- AMS I.A、AMS I.C、AMS I.D、AMS III.D、AMS III.I、AMS II.D、AMS III.F

< 承認済み SSC 方法論のセクトラル・スコープの修正 >

- AMS III.D (10・13 15)、AMS III.I (15 13)、AMS III.E (15 13)、AMS III.H (15 13)

< ガイダンス事項 >

・次期 SSC WG メンバー (2007 年 6 月 ~ 2008 年 5 月): 5 名選出

【CDM プロジェクト活動の登録に関する事項】

< 登録申請・レビュー要請案件 (4 桁の数値はプロジェクト参照番号) >

・登録承認: 2 件

- “Shenzhen Xiaping Landfill Gas Collection and Utilization Project” (0887) (中国)

- “Ningguo Cement Plant 9100KW Waste Heat Recovery and Utilisation for Power Generation Project of Anhui Conch Cement Co. Ltd” (0898) (中国)

・条件付登録承認: 6 件

- “Demand side energy efficiency projects at RIL-PG” (0956) (インド)

- “Garganta da Jararaca Small Hydroelectric Power Plant (SHP)” (0809) (ブラジル)
- “Allain Duhangan Hydroelectric Project (ADHP)” (0862) (インド)
- “Yangquan Coal Mine Methane (CMM) Utilization for Power Generation Project, Shanxi Province, China” (0892) (中国)
- “20MW Samal Grid-connected Hydroelectric Project in Orissa, India” (0895)
- “Methane Capture and use as fuel at Rajaram Maize Products, Chattisgarh” (0945) (インド)
- ・ レビュー要請：8 件
 - 0754、0854 (以上ブラジル)、0859、0861、0863、0872、0951、0954 (以上インド)
- < 登録手続事項 >
- ・ RIT 追加メンバー選任は次回 EB32 に繰越。(前回 EB30 にて 28 名を選任済)
- ・ プロジェクト参加者が自ら登録申請を取り消す場合、登録料は返還されず、改めて同プロジェクトの登録申請を行う場合には、再度登録料の支払いが必要。

- 【CER 発行・CDM 登録簿に関する事項】**
- < CER 発行要請レビュー (計 1 件) (4 桁の数値はプロジェクト参照番号) >
- ・ 発行承認：1 件
 - “BK Energia Itacoatiara” (0168) : 121,166CERs (ブラジル)
- < 発行手続事項 >
- ・ “AWMS GHG Mitigation Project, MX-05-B-07, Sonora, Mexico”、及び“AWMS GHG Mitigation Project, MX-05-B-09, Nuevo Leon”の CER 発行再要請に関して、DOE (DNVCert) による発行要請の再提出を許可した。
- ・ CER 発行要請の再提出は不承認決定から 60 日以内とすることについて合意した。

- 【その他】**
- ・ プログラム CDM の手続きに関しては、審議に多くの時間を費やしたものの、次回 EB32 にて引き続き検討を行うこととなった。
- ・ 第 3 回 DNA フォーラムが 2007 年 10 月 3 日～5 日、サブサハラ地域にて開催予定。
- ・ 次回 EB32 は 2007 年 6 月 20 日～22 日にボン (事務局) にて開催 (公開討議：6/21～22)

4. 出席者

(網掛部は欠席理事)

出身地域枠		理事 (Member) 【10 名】	代理理事 (Alternate Member) 【10 名】
国連 地域 グループ (5 地域)	アフリカ	Mr. Samuel Adeoye Adejuwon (ナイジェリア/環境省 環境評価局気候 変動ユニット部長補佐)	Mr. Kamel Djemouai (アルジェリア/国土整備・環境省 環境協 力部 部長補佐)
	アジア	Mr. Rajesh Kumar Sethi (インド/環境森林省 気候変動部部長)	Ms. Liana Bratasida (インドネシア/環境省 地球環境・国際協 力担当審議官)
	東欧	Ms. Anastasia Moskalenko (ロシア/Gazpromenergo Ltd.主任専門家)	Ms. Natalia Berghi (モルドバ/生態天然資源省 水文気象庁 国際課 課長)
	ラテンアメリカ 及び海	Ms. Karen Christiana Figueres Olsen (コスタリカ/環境エネルギー省 コスタ リカ共同実施オフィス 顧問)	Mr. José Domingos Gonzalez Miguez (ブラジル/科学技術省 省庁間気候変動委 員会 事務局長)
	西欧 その他	Ms. Ulrika Raab (スウェーデン/エネルギー庁上級アドバイザー)	Ms. Maria-José Sanz Sanchez (スペイン/地中海中央環境研究所)
附属書 I 国 (Annex I)		Mr. Hans Jürgen Stehr (デンマーク/エネルギー庁研究開発部部長)	Mr. Lex de Jonge (オランダ/住宅・国土計画・環境省)
		Mr. Akihiro Kuroki (黒木 昭弘 氏) (日本/(財)日本エネルギー経済研究所 研 究理事)	Ms. Jeanne-Marie Huddleston (カナダ/外務国際貿易省 気候変動部 上級 政策アナリスト)
非附属書 I 国 (Non-Annex I)		Mr. Xuedu Lu (呂 学都 氏) (中国/科学技術部農村社会開発司 部長)	Mr. Richard S. Muyungi (タンザニア/副大統領府環境部 副部長)
		Mr. Hernán Carlino (アルゼンチン/環境・持続的開発庁 気候 変動ユニット)	Mr. Philip M. Gwage (ウガンダ/水・土地・環境省長官補佐)
小島嶼国連合 (AOSIS)		Mr. Rawleston Moore (バルバドス/気候変動コンサルタント)	Ms. Desna M. Solofa (サモア/外務・貿易省)

オブザーバー参加：約 10 名

第 31 回 CDM 理事会報告

1. 理事会メンバーについて

- ・ 欠席メンバー：Sanz 代理理事（スペイン）、Berghi 代理理事（モルドバ）、Muyungi 代理理事（タンザニア）
 - ・ メンバーの辞任（2 名）
 - Anastasia Moskalenko 理事（ロシア / 東欧地域、認定パネル（CDM-AP）副議長）：UNFCCC 事務局、認定部門へ就任予定（2007 年 7 月）
 - Maria Jose Sanz Sanchez 代理理事（スペイン / 西欧・その他地域、植林・再植林ワーキンググループ（AR WG）副議長）：UNFCCC 事務局、土地利用（Lulucf）部門へ就任予定（2007 年 5 月）
- 後任理事・代理理事については、現時点では未定。（国連地域グループの東欧地域及び西欧・その他地域より推薦、選出の予定。）

2. 議題の採択

- ・ 原案通り採択

3. ワークプラン

3. (a) 運営組織（OE）の認定

< 認定パネルの報告 >

- ・ 第 29 回 CDM 認定パネル（CDM-AP29）が 2007 年 4 月 19 日～21 日に開催され、「CDM 認定パネル第 18 次プロGRESSレポート（CDM-ACCR-R-18）」¹が、CDM-AP 議長の Carlino 理事より報告された。

< ガイダンス・手続事項 >

- ・ 理事会は、DOE である KPMG Sustainability B.V.より 2006 年度の年次活動報告書が、2007 年 4 月 2 日に提出されたことについて留意した。²
- ・ DOE が理事会の指示に従わない場合、理事会が採るべき適切な措置について、引き続き CDM-AP に対し、検討を要請した。また、CDM 手続規則に従い、DOE は理事会を通じて COP/MOP に対して自らの活動に関する説明責任を負うことを確認した。
- ・ 理事会は、DOE に対するマルチサイト認定システム（multi-site accreditation system for the DOEs）に関する CDM-AP からの提案について検討を行った。CDM-AP に対し、次々回 EB33（7 月開催）に向けて、品質管理システム（quality management system）と関連させた更なる提案の提出を要請した。
- ・ 理事会は、評価チーム（CDM-AT）メンバーへの業務費基準（Indicative level of fees for the CDM AT

¹ レポートでは、2007 年 3 月 3 日～4 月 21 日までの認定パネルに関する動きをカバーしている。

² 前回 EB30 にて、2007 年 3 月 30 日までに提出するよう、再度指示していた。

Members) の修正に合意した。(EB31 報告書 [Annex1](#))

・ AP メンバーの選任

- AP メンバー改選 (2 名) に伴い、Francisco Antonio Espana Fernandez 氏、Anil Jauhri 氏を選出 (任期 2 年間)

< スケジュール >

- ・ 次回第 28 回認定パネル (CDM-AP28) 開催日程：2007 年 4 月 19 日～21 日

3. (b) ベースライン・モニタリング計画の方法論

< 方法論パネルの報告 >

- ・ ベースライン・モニタリング方法論パネル (MP) 議長の黒木理事が、2007 年 3 月 26 日～30 日に開催された第 26 回方法論パネル (MP26) の報告を行った。

< 新規方法論 >

- ・ 承認 (A 判定): 8 件
 - NM0141-rev : “Displacing grid/off-grid steam and electricity generation with less carbon intensive fuels in Aba, Nigeria” **AM0048 : “New cogeneration facilities supplying electricity and/or steam to multiple customers and displacing grid/off-grid steam and electricity generation with more carbon-intensive fuels”** (セクトラル・スコープ番号 1 : エネルギー産業)(EB31 報告書 [Annex2](#))
 - NM0161-rev : “Mondi Gas Turbine Co-generation in Richards Bay, South Africa” **AM0049 : “Methodology for gas based energy generation in an industrial facility”** (セクトラル・スコープ番号 1、4 : エネルギー産業、製造業)(EB31 報告書 [Annex3](#))
 - NM0165-rev : “Feed switchover from Naphtha to Natural Gas (NG) at Phulpur plant of IFFCO” **AM0050 : “Feed switch in integrated Ammonia-urea manufacturing industry”** (セクトラル・スコープ番号 5 : 化学産業)(EB31 報告書 [Annex4](#))
 - NM0174-rev : “MSW Incineration Project in Guanzhuang, Tianjin City, China” **AM0025 : “Avoided emissions from organic waste through alternate waste treatment processes (Version 7)”**(セクトラル・スコープ番号 1、13 : エネルギー産業、廃棄物処理)(EB31 報告書 [Annex5](#))
 - NM0176-rev : “Soluciones Nitrous Oxide Abatement Project” **AM0051 : “Secondary catalytic N2O destruction in nitric acid plants”** (セクトラル・スコープ番号 5 : 化学産業)(EB31 報告書 [Annex6](#))
 - NM0179 : “Waste Heat Recovery based Steam and Power Generation” **次回 EB32 にて審議予定の統合化方法論 (廃ガス・廃熱・廃圧エネルギーシステム) に組み込むことが決定された。**
 - NM0186 : “Increased electricity generation from existing hydropower stations through Decision Support System optimization in Azerbaijan” **AM0052 : “Increased electricity generation from existing hydropower stations through Decision Support System optimization”** (セクトラル・スコープ番号 1 : エネルギー産業)(EB31 報告書 [Annex7](#))
- ・ 修正条件付承認 (B 判定): 4 件 (2007 年 5 月 7 日までに再提出を受け付ける)
 - NM0194 : “Green House Gas (GHG) emission reduction by Manufacturing of natural surfactant Alpha Olefin Project”

(B 判定理由：リーケージに問題有り。)

- NM0197：“India – Accelerated Chiller Replacement Program”
(B 判定理由：省エネについて、負荷率（ロードファクター）以外にも他のファクターについても考慮されなければならない。)
- NM0200：“Fuel switch project for generation of cleaner power”
(B 判定理由：プロジェクトシナリオがベースラインシナリオに十分反映される必要がある。)
- NM0202：“AzDRES Power Plant Energy Efficiency and charge in fuel mix”
(B 判定理由：騒音の問題やプラントの短寿命等を考慮すると B 判定が妥当。)

・不承認（C 判定）：4 件

- NM0142-rev：“Palm Methyl Ester – Biodiesel Fuel (PME-BDF) production and use for transportation in Thailand”
(C 判定理由：バイオ燃料のダブルカウントの問題も包含している案件。現時点では採択できないが、更に正確なリーケージの算出がなされれば、採択可能だと思われる。)
- NM0170-rev：“Installation of Carbon Dioxide Recovery (CDR) plant at Indian Farmers Fertilizer Cooperative Ltd (IFFCO), phulpur plant”
(C 判定理由：ダブルカウントの問題が排除されていない。)
- NM0195-rev：“Rama Newsprint and Papers Limited energy efficiency project, India”
- NM0204：“Energy efficiency improvement through crude pre-heat train optimization in Barauni Refinery, Indian Oil Corporation Limited”
(C 判定理由：方法論自体の質に問題があり、全面的に再フォーマットする必要がある。)

・その他（MP へ差し戻し：1 件）

- NM0171：“Use of Hydro Heavy Fuel Oil Technology (HHFOT) to improve energy efficiency at a power plant in Pakistan”
(MP 差し戻し理由：「シナリオ検証及び追加性評価統合化ツール（combined tool for identification of the baseline scenario and assessment of additionality）」が利用できるような形での見直しを MP に要請した。)

・その他（MP26 での予備勧告³：4 件）

- NM0160-rev：“Shell Cogeneration Project”
- NM0172-rev：“Methane Leak Reduction From Natural Gas Pipelines”
- NM0192-rev：“Recovery and utilization of flare waste gases at the Industrial Complex of La Plata Project”
- NM0203：“Energy efficiency improvements of Pucheng Power Plant through retrofitting turbines at China”

<承認済み方法論の明確化への対応>

・承認：5 件

- AM_CLA_0038(ACM0002 ver.6)“Clarification on data vintage if OM or BM emission coefficient”
- AM_CLA_0039 (AM0031 ver.2) “Monitoring of gauze supplier”
- AM_CLA_0040 (ACM0004 ver.2) “Clarification on estimation of efficiency of captive power”

³ プロジェクト参加者は方法論パネル（MP）からの予備勧告を受け取った後 4 週間以内に、MP に対し追加説明を提出することができる。

- AM_CLA_0041 (ACM0004 ver.2) “Clarification on applicability of methodology to projects”
- AM_CLA_0042 (ACM0006 ver.4) “Simultaneous application of two compatible baseline scenarios (No.3 and No.4) to one single CDM project activity”

<承認済み方法論の修正要請>

- ・修正要請承認：5件（修正内容は2007年5月18日より発効）
 - AM0014 (ver.2)：AM_REV_0036 (“Revision to include a project that displaces a fuel other than natural gas and to allow the use of the tool for demonstration and assessment of additionality”)・AM_REV_0038 (“Propose the use of the latest version of the “Tool for demonstration and assessment of additionality” as an option of the additionality test”)(EB31 報告書 [Annex8](#))
(修正内容：プロジェクトがなければ石油や石炭を利用しているケースも適用条件に含め、追加性証明ツールを用いる。)
 - ACM0007 (ver.1)：AM_REV_0037 (“Redefine the Single cycle to combined cycle definition as to utilize previously-unused waste heat from an engine in a power plant”)(EB31 報告書 [Annex9](#))
(修正内容：適用条件の拡大(タービンだけでなく、ディーゼルエンジンも対象設備とする。))
 - AM0023 (ver.1)：AM_REV_0042 (“Clarification on Inclusion of Distribution System Above Ground Equipment in AM0023”)(EB31 報告書 [Annex10](#))
(修正内容：適用条件の拡大(輸送パイプライン設備だけでなく、ガス供給設備や地上施設も対象設備とする。))
 - ACM0006 (ver.4)：AM_REV_0044 (“New Scenario for energy efficiency”)(EB31 報告書 [Annex11](#))
(修正内容：新しいシナリオを追加(既存設備の修繕や新規設備への代替による電力エネルギー効率改善に係るプロジェクトのベースラインシナリオ選択肢に、既存設備で利用しているバイオマス残渣の量が各々異なる新しいシナリオを追加。))
- ・修正要請不承認：7件
 - AM_REV_0029 (ACM0002 ver.6)：“Enabling the use of ACM0002 for power plants that result in emission reductions in another non-Annex I country because of the enhancement of dispatch of clean energy to that grid”
 - AM_REV_0035 (AM0026 ver.2)：“Methodology for zero-emissions grid-connected electricity generation from renewable sources in Chile or in countries with merit order based dispatch grid”
 - AM_REV_0039 (ACM0003 ver.4)：“The proposed revised methodology will expand ACM0003 ver.4 scope to include projects that source biomass from dedicated plantations as an alternative fuel”
 - AM_REV_0040 (AM0037 ver.1.1)：“Flare reduction and gas utilization at fossil fuel processing facilities”
 - AM_REV_0041 (AM0043 ver.1)：“Amendment to include leak reduction from a natural gas distribution grid by replacing old steel pipes with polyethylene pipes”
 - AM_REV_0043 (AM0014 ver.2)：“Applicability of AM0014 methodology to cogeneration projects”
 - AM_REV_0045 (ACM0003 ver.4)：“To apply approved methodology to the cement industry where fossil fuel(s) used in cement manufacture are partially replaced by alternative fuels and they are already part of the existing fuel mix”

<ガイダンスに関する事項>

- ・MP メンバーの選任⁴ (15 名、任期：1 年間 (2007 年 6 月～2008 年 5 月))
 - Amr Abdel-Aziz 氏、Jean-Jacques Becker 氏、Felix Dayo 氏、Juerg Fuessler 氏、Christophe de Gouvello 氏、Jan-Willem Martens 氏、Vijay Kumar Mediratta 氏、Narendra Parachuri 氏、Daniel Perczyk 氏、Braulio Pikman 氏、Roberto Schaeffer 氏、Lambert Schneider 氏、Christoph Sutter 氏、Massamba Thioye 氏、山口健一郎氏 (三菱総合研究所)
- ・承認済みのモニタリング計画の修正要請を反映させた「プロジェクト参加者への修正要請のクラリフィケーション、及び承認済み方法論もしくは逸脱のクラリフィケーション (“clarification to project participants on when to request revision, clarification to an approved methodology or a deviation”)」を修正採択。(EB31 報告書 [Annex12](#))
- ・「理事会による承認済み方法論の修正手続 (“procedure for the revision of the approved baseline and monitoring methodology by the Executive Board”)」採択。(EB31 報告書 [Annex13](#))

<スケジュール>

- ・次回第 27 回方法論パネル (MP27) 開催日程：2007 年 5 月 28 日～6 月 1 日

3. (c) 植林・再植林プロジェクトに関する事項

<植林・再植林ワーキンググループの報告>

- ・第 13 回植林・再植林ワーキンググループ (AR WG13) が 2007 年 3 月 19 日～21 日に開催され、AR WG 議長の Gwage 理事より報告された⁵。

<ガイダンスに関する事項>

- ・理事会は、「植林・再植林 CDM プロジェクト活動を実施する上での土地適格性証明手続案 (“the draft procedure to demonstrate the eligibility of lands for afforestation and reforestation project activities under the clean development mechanisms”)」(EB31 報告書 [Annex14](#)) をパブリックコメントにかけることに合意。(パブリックコメント受付期間：2007 年 5 月 7 日～6 月 18 日) 尚、パブリックコメントを受け、次々回 EB33 にて手続案を審議する予定。
- ・理事会は、「AR プロジェクト内のサンプルプロットの算出方法を定めた方法論ツール案 (“the draft methodological tool for the calculation of the number of sample plots for measurements within A/R CDM project activities”)」を採択。(EB31 報告書 [Annex15](#))
- ・理事会は、「AR プロジェクトでの重要な GHG 排出テストに関するツール案 (“the draft tool for testing the significance of GHG emissions in A/R CDM project activities”)」を採択。(EB31 報告書 [Annex16](#))

⁴ 今期 (～2007 年 5 月末) をもって、Ashok Sarkar 氏が退任。

⁵ 今次理事会では新規の AR 方法論についての審議はなされなかったが、AR WG13 にて以下の 4 つの方法論に予備勧告がなされている。ARNM0024-rev (“San Nicolas CDM Reforestation Project”)、ARNM0028-rev (“Reforestation on degraded land for sustainable wood production of woodchips in the eastern coast of the Democratic Republic of Madagascar” (王子製紙 (株) 参画プロジェクトの新規方法論))、ARNM0031 (“The Namwasa Forestation Project”)、ARNM0032 (““San Carlos” Land Restoration Through Silvopastoral”)

- ・ AR WG メンバーの選任⁶ (全 10 名、任期：1 年間 (2007 年 6 月～2008 年 5 月))
 - Nagmeldin G. Elhassan 氏、Iginio Emmer 氏、Marcelo Rocha 氏、Shailendra Kumar Singh 氏、Craig Trotter 氏、Xiaoquan Zhang 氏、Neil Bird 氏⁷、Willy R. Makundi 氏⁸、Raul Ponce-Hernandez 氏⁹、Braulio Pikmann 氏¹⁰

<スケジュール>

- ・ 次回、第 14 回植林・再植林ワーキンググループ (AR WG14) 開催スケジュール：2007 年 6 月 4 日～6 日
- ・ 新 AR 方法論 (第 14 ラウンド) 提出締切：2007 年 6 月 29 日

3. (d) 小規模 CDM プロジェクトに関する事項

<小規模 CDM ワーキンググループの報告>

- ・ 第 9 回小規模 CDM ワーキンググループ (SSC WG09) が 2007 年 3 月 19 日～23 日に開催され、SSC WG 議長の Raab 理事より報告された。

<新規 SSC 方法論>

- ・ 承認 (A 判定)：2 件
 - AMS III.L：“Avoidance of methane production from biomass decay through controlled pyrolysis” (熱分解を用いたバイオマス腐食からのメタン発生回避)
 - AMS III.M：“Reduction in consumption of electricity by recovering soda from paper manufacturing process” (製紙プロセスにおける苛性ソーダ回収に伴う電力消費削減)

<承認済み SSC 方法論の修正>

- ・ 修正承認：
 - AMS I.A (EB31 報告書 [Annex19](#))
 - AMS I.C (EB31 報告書 [Annex20](#))
 - AMS I.D (EB31 報告書 [Annex21](#))
 - AMS III.D (EB31 報告書 [Annex22](#))
 - AMS III.I (EB31 報告書 [Annex23](#))
 - AMS II.D (EB31 報告書 [Annex24](#))
 - AMS III.F (EB31 報告書 [Annex25](#))

<承認済み SSC 方法論のセクトラル・スコープの修正>

- AMS III.D (セクトラル・スコープ番号：10 (燃料からの漏洩) 13 (廃棄物処理) 15 (農業))
- AMS III.I (セクトラル・スコープ番号：15 (農業) 13 (廃棄物処理))
- AMS III.E (セクトラル・スコープ番号：15 (農業) 13 (廃棄物処理))
- AMS III.H (セクトラル・スコープ番号：15 (農業) 13 (廃棄物処理))

⁶ 今期 (～2007 年 5 月末) をもって、Sergio Jauregui 氏が退任。

⁷ AR WG 定員増加 (3 名) に伴う新メンバー

⁸ AR WG 定員増加 (3 名) に伴う新メンバー

⁹ AR WG 定員増加 (3 名) に伴う新メンバー

¹⁰ MP メンバー。AR WG への MP からの代表者。

< ガイダンスに関する事項 >

- ・ SSC WG メンバーの選任¹¹ (全 5 名、任期：1 年間 (2007 年 6 月～2008 年 5 月))
 - Gilberto Bandeira De Melo 氏、Felix Babatunde Dayo 氏、Ten Hoopen Michiel 氏、Binu Parthan 氏、Daniel Perczyk 氏

< スケジュール >

- ・ 次回、第 10 回小規模 CDM ワーキンググループ (SSC WG10) 開催スケジュール：2007 年 5 月 23 日～25 日

3. (e) CDM プロジェクトの登録に関する事項**< プロジェクト登録数 >**

- ・ 2007 年 5 月 4 日現在、647 のプロジェクトが登録されている¹²。

< プロジェクト登録 >

< 登録申請・レビュー要請案件 (4 桁の数值はプロジェクト参照番号) []内は担当 DOE >

- ・ 登録承認：2 件
 - “Shenzhen Xiaping Landfill Gas Collection and Utilization Project” (0887) (中国) [SGS]
 - “Ningguo Cement Plant 9100KW Waste Heat Recovery and Utilisation for Power Generation Project of Anhui Conch Cement Co. Ltd” (0898) (中国) [TÜV-SÜD]
- ・ 条件付登録承認：6 件
 - “Demand side energy efficiency projects at RIL-PG” (0956) (インド) [TÜV-SÜD]
 - “Garganta da Jararaca Small Hydroelectric Power Plant (SHP)” (0809) (ブラジル) [SGS]
 - “Allain Duhangan Hydroelectric Project (ADHP)” (0862) (インド) [DNV]
 - “Yangquan Coal Mine Methane (CMM) Utilization for Power Generation Project, Shanxi Province, China” (0892) (中国) [TÜV-SÜD]
 - “20MW Samal Grid-connected Hydroelectric Project in Orissa, India” (0895) [DNV]
 - “Methane Capture and use as fuel at Rajaram Maize Products, Chattisgarh” (0945) (インド) [DNV]
- ・ レビュー要請：8 件
 - “Use of blast furnace slag in the production of blended cement at Votorantim Cimentos” (0754) (ブラジル) [SGS] (EB31 報告書 [Annex28](#))
 - “Production of blended cement with blast furnace slag at Cimento Mizu” (0854) (ブラジル) [SGS] (EB31 報告書 [Annex29](#))
 - “Vikram Cement: Energy efficiency by up-gradation of clinker cooler in cement manufacturing” (0859) (インド) [SGS] (EB31 報告書 [Annex30](#))
 - “ACEL Blended cement project at Sankrail grinding unit” (0861) (インド) [DNV] (EB31 報告書 [Annex31](#))
 - “Optimum utilisation of clinker for Pozzolana Portland Cement (PPC) production at Birla Plus

¹¹ 今期 (～2007 年 5 月末) をもって、山田和人氏 (パシフィックコンサルタンツ) が退任。

¹² CDM プロジェクトの登録状況については UNFCCC ウェブサイト (<http://cdm.unfccc.int/Projects/>) にて閲覧可能。

- Cement in Bathinda, Punjab, India” (0863) (インド) [TÜV-SÜD] (EB31 報告書 [Annex32](#))
- “4.0 MW Power Plant Using Clinker Cooling Gas Waster Heat” (0872) (インド) [DNV] (EB31 報告書 [Annex33](#))
 - “Energy efficiency and fuel switching measures in the caustic soda and sodium cyanide plant at Vadodara complex of GACL” (0951) (インド) [DNV] (EB31 報告書 [Annex34](#))
 - “GHG emission reduction by energy efficiency improvement of clinker cooler in cement manufacturing at Rajashree cement at District Gulbarga, Karnataka India” (0954) (インド) [SGS] (EB31 報告書 [Annex35](#))

<登録手続きに関する事項>

- ・RIT メンバー追加公募¹³(2007年3月26日～4月20日)が実施され、45人の応募が寄せられた。今次理事会では選考の時間が確保できなかったため、次回 EB32 にて応募者の選考を行う予定。

<ガイダンスに関する事項>

- ・プロジェクト参加者が自発的にプロジェクト登録前の申請取り消しを行う場合、登録料は返還されないこと、また同プロジェクトの登録申請を再提出する場合には、再度登録料を支払う必要があることを理事会は確認した。

3. f) CER 発行及び CDM 登録簿 (レジストリ) に関する事項

< CER 発行数 >

- ・2007年5月4日現在、45,908,092 CERs が発行されている。¹⁴

< CER 発行要請レビュー >

< レビュー要請案件 (4桁の数値はプロジェクト参照番号) []内は担当 DOE >

- ・発行承認：1件
 - “BK Energia Itacoatiara” (0168) : 121,166 CERs (ブラジル) [TÜV-SÜD]

<ガイダンスに関する事項>

- ・理事会は、下記2件の CER 発行再要請に関して、DOE (DNVCert) による発行要請の再提出を許可した。
 - “AWMS GHG Mitigation Project, MX-05-B-07, Sonora, Mexico” (0150) (モニタリング期間：2005年10月1日～2006年2月28日)
 - “AWMS GHG Mitigation Project, MX-05-B-09, Nuevo, Leon” (0168) (モニタリング期間：2005年10月1日～2006年2月28日)
- ・理事会は、CER 発行要請の再提出は不承認決定から60日以内とすることについて合意した。

3. g) UNFCCC 補助機関会合 (SB) との協働

¹³ 前回 EB30 にて、第1期公募として28名(John Shaibu Kilani 氏(前 EB 理事)、Marina Jacob Shvangiradze 氏(元 EB 理事)、Martin Enderlin 氏(元 EB 代理理事)、Axel Michaelowa 氏(ハンブルグ国際経済研究所)、飯岡眞一氏(日本能率協会)等)を RIT メンバーとして選任済みである。

¹⁴ CER 発行状況については UNFCCC ウェブサイト (<http://cdm.unfccc.int/Issuance/>) にて閲覧可能。

- ・ 理事会は以下の事項に関して、補助機関会合（SB）¹⁵での議論をフォローするよう、以下のメンバーに要請した。
 - 小規模 CDM（SSC）（SBSTA 関連事項）：Miguez 理事、Sethi 理事、Moskalenko 理事
 - 新規 HCFC-22 製造施設（SBSTA 関連事項）：Miguez 理事
 - 登録簿（SBI 関連事項）：Sethi 理事、Moskalenko 理事

4. CDM 管理計画及び予算に関する事項

< CDM 管理計画 >

- ・ 理事会は、2007 年度 CDM 管理計画（CDM MAP 2007）修正案の作成を事務局に要請し、次回 EB32 にて検討を行うこととなった。

< 予算 >

- ・ 前回 EB30（3 月 24 日）から EB31（5 月 2 日）の期間、68 件のプロジェクト登録費（112 万米ドル）及び 31 件の分担金（SOP）（110 万米ドル）収入があり、計 222 万米ドルの追加収入となった。（その他、詳細な収支状況については、EB31 報告書 [Annex36](#) を参照。）
- ・ 前回 EB30（3 月 24 日）から EB31（5 月 2 日）の期間、欧州委員会（EC）（108,315 米ドル）及びベルギー政府（24,375 米ドル）からの拠出金を受領した。¹⁶

5. その他

5. (a) CDM プログラム活動

- ・ 理事会は、「プログラム活動の個別 CDM プロジェクト活動の登録及びプログラム活動の CER 発行手続」（“procedures for registration of a programme of activities as a single CDM project activity and issuance of certified emission reductions for a programme of activities”）、「プログラム活動 PDD 案」、「CDM プログラム活動 PDD 案」に関し、前回 EB30 に引き続き審議を行った。理事からは、複数の小規模プロジェクトを収束（bundle）した際の取り扱い（Miguez 理事）、バイオ燃料プロジェクトにおけるリーケージの管理について（黒木理事）等の指摘がなされ、議論が行われた。理事会は、理事からのコメントを加味した各種文書（ガイダンス、PDD フォーマット等）の修正版の準備を事務局に要請し、次回 EB32 にて引き続き審議及び各種文書の採択を目指すこととなった。

5. (b) DNA との関係

- ・ 第 3 回 DNA フォーラム（the third DNA Forum meeting）が 2007 年 10 月 3 日～5 日にサブサハラ地域（詳細な開催地は未定）にて開催されることが事務局より発表された。

¹⁵ 気候変動枠組条約第 26 回補助機関会合：2007 年 5 月 7 日～18 日（於：ドイツ・ボン）

¹⁶ 2006～2007 年の CDM 活動に対する各国の拠出状況については、EB31 報告書 [Annex36](#) の 2 ページ目（Table 2）を参照。

5. (c) DOE/AE との関係

- ・理事会は、DOE/AE コーディネーションフォーラム議長である Werner Betzenbichler 氏(TÜV SÜD) を招聘し、DOE/AE の見解等について以下の内容の口頭報告を受けた。
 - レビュー中及び不承認となったプロジェクトのクレジット期間即時開始の妥当性
 - 登録料の再支払い
 - レビュースコープ及び連絡手段についての変更
 - 逸脱要請手続及びモニタリング計画変更手続の利用
 - 逸脱要請のスケジュール
 - CDM によってもたらされるインセンティブが、プロジェクト活動の進捗に対し重大な決定を下していること
- ・また、2007 年 5 月 3 日に開催された DOE/AE フォーラムでの成果について報告を行い、特に以下の点について指摘を行った。
 - チェック回数の増加、及び通常査察 (regular surveillance) チェックとスポットチェックとの違いについての説明
 - 通常査察でのパフォーマンスパラメーターの検討について
 - プロジェクト登録の際の完全性チェック、CER 発行要請、スコープのガイダンスの完全性チェック等の遅延について
 - DOE より理事会に提供される提言 (input) に関するフォローアップメカニズムの改善要請
- ・Betzenbichler 氏は、「有効化審査・検証マニュアル (VV マニュアル)」の更新版を提供した。

5. (d) 利害関係者・各国・NGO との関係

- ・5月4日 (EB31 最終日) 午後、理事会とオブザーバーとの間で質疑応答セッションが行われた。
- ・次回 EB32 オブザーバー出席申込締切：2007 年 5 月 30 日 (17 : 00 GMT)

5. (e) その他

- ・理事会は、理事会に寄せられる未承諾提案 (unsolicited submissions) の取り扱いについて、最近の実例を反映させ、「パブリックコミュニケーションに関する手続 (“Procedures for Public communication with the CDM Executive Board”)」を修正した。(EB31 報告書 [Annex37](#))

<パブリックコメント>

- ・DOE/AE、他一般から以下のコメントが理事会宛に送付され、非公開討議にて取り上げられた。(公開討議では審議せず。)

- (a) Andrei Marcu 氏 (国際排出量取引協会 (IETA)) :
EB29 で先送りとなった議題 (プログラム CDM、ダブルカウント、EB との対話拡大) について (2007 年 3 月 16 日受領)
- (b) Kevin James 氏 (Quality Tonnes) :

- NM0186 の EB への専門家報告書について (2007 年 3 月 19 日受領)
- (c) Einar Telnes 氏、Michael Lehmann (DNV):
プロジェクト活動 0761¹⁷の明確化要請について (2007 年 4 月 3 日受領)
- (d) Jaime Bustamante 氏 (Cementos Lima S.A.):
Einar Telnes 氏 (DNV) を通じたプロジェクト参加者からのコミュニケーションについて
(2007 年 4 月 5 日受領)

< 次回理事会開催スケジュール >

- ・次回 EB32 は 2007 年 6 月 20 日～22 日に、ドイツ・ボン (UNFCCC 事務局) にて開催の予定。(EB32 議題案: EB31 報告書 [Annex38](#)) (非公開討議: 6 月 20 日、公開討議: 6 月 21 日～22 日)

< 2007 年度理事会、パネル・ワーキンググループ開催スケジュール¹⁸ >

- ・理事会開催スケジュールは以下の通り。

EB	日程 (2007 年)	場所・備考
EB32	6 月 20 日～22 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB33	7 月 25 日～27 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB34	9 月 12 日～14 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB35	10 月 17 日～19 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB36	11 月 28 日～30 日	インドネシア・バリ予定 <COP/MOP3 との共催>

- ・方法論パネル (MP)、植林・再植林ワーキンググループ (AR WG)、小規模ワーキンググループ (SSC WG) の開催スケジュールは以下の通り。

MP	日程 (2007 年)	場所・備考
MP27	5 月 29 日～6 月 1 日	ボン(第 18 ラウンド提出締切: 2007 年 2 月 5 日)
MP28	7 月 10 日～13 日	ボン(第 18 ラウンド提出締切: 2007 年 2 月 5 日)
MP29	9 月 25 日～28 日	ボン (第 19 ラウンド提出締切: 2007 年 6 月 1 日)
MP30	11 月 13 日～16 日	ボン (第 20 ラウンド提出締切: 2007 年 9 月 3 日)
MP31	未定	ボン (第 21 ラウンド提出締切: 2007 年 12 月 3 日)

AR WG	日程 (2007 年)	場所・備考
ARWG14	6 月 7 日～8 日	ボン(第 13 ラウンド提出締切: 2007 年 3 月 5 日)
ARWG15	7 月 5 日～6 日	ボン(第 13 ラウンド提出締切: 2007 年 3 月 5 日)
ARWG16	7 月 10 日～13 日	ボン (第 14 ラウンド提出締切: 2007 年 6 月 29 日)
ARWG17	9 月 20 日～21 日	ボン (第 15 ラウンド提出締切: 2007 年 10 月 1 日)

SSC WG	日程 (2007 年)	場所・備考
SSCWG11	6 月 7 日～8 日	ボン
SSCWG12	7 月 5 日～6 日	ボン

¹⁷ “Uruba Renewable Irrigation Project” (0761): 前回 EB30 で不承認 (C 判定) と決定された。

¹⁸ EB26 で発表されたスケジュールを抜粋。(EB26 報告書 [Annex36](#))

SSCWG13	9月20日～21日	ボン
SSCWG14	11月8日～9日	ボン

6. 閉会

QA セッション

- ・5月4日（EB31 最終日）午後、理事会とオブザーバーとの間で質疑応答セッションが行われた。主な討議内容は以下の通り。

Q1（カーボンブローカー）

- ・NM0179の審議結果について、再度説明を行って頂きたい。

A1（事務局）

- ・NM0179については、内容としては承認を行ったものの、次回EB32（6月開催）にて関連する方法論との統合化を行う予定であり、今次理事会にてNM0179単独での方法論承認となったわけではない。

Q2（IETA）

- ・理事会として、更なる前向きな議論を期待している。

A2（Stehr 議長）

- ・最善を尽くしたい。

Q3（政府関係者）

- ・今次理事会では、植林・再植林 CDM（AR-CDM）に関する事項での議論が、時間的制約からあまりなされなかったが、今後、更なる AR-CDM の促進がなされることを願っている。

A3（Stehr 議長）

- ・AR-CDM に関しては、今後更に積極的に取り組むよう、奨励していきたい。

以上
（文責：家本 了誌）